



# 2030年頃のモビリティの姿 ジェロントロジーの立場から

東京大学

総長室 高齡社会総合研究機構

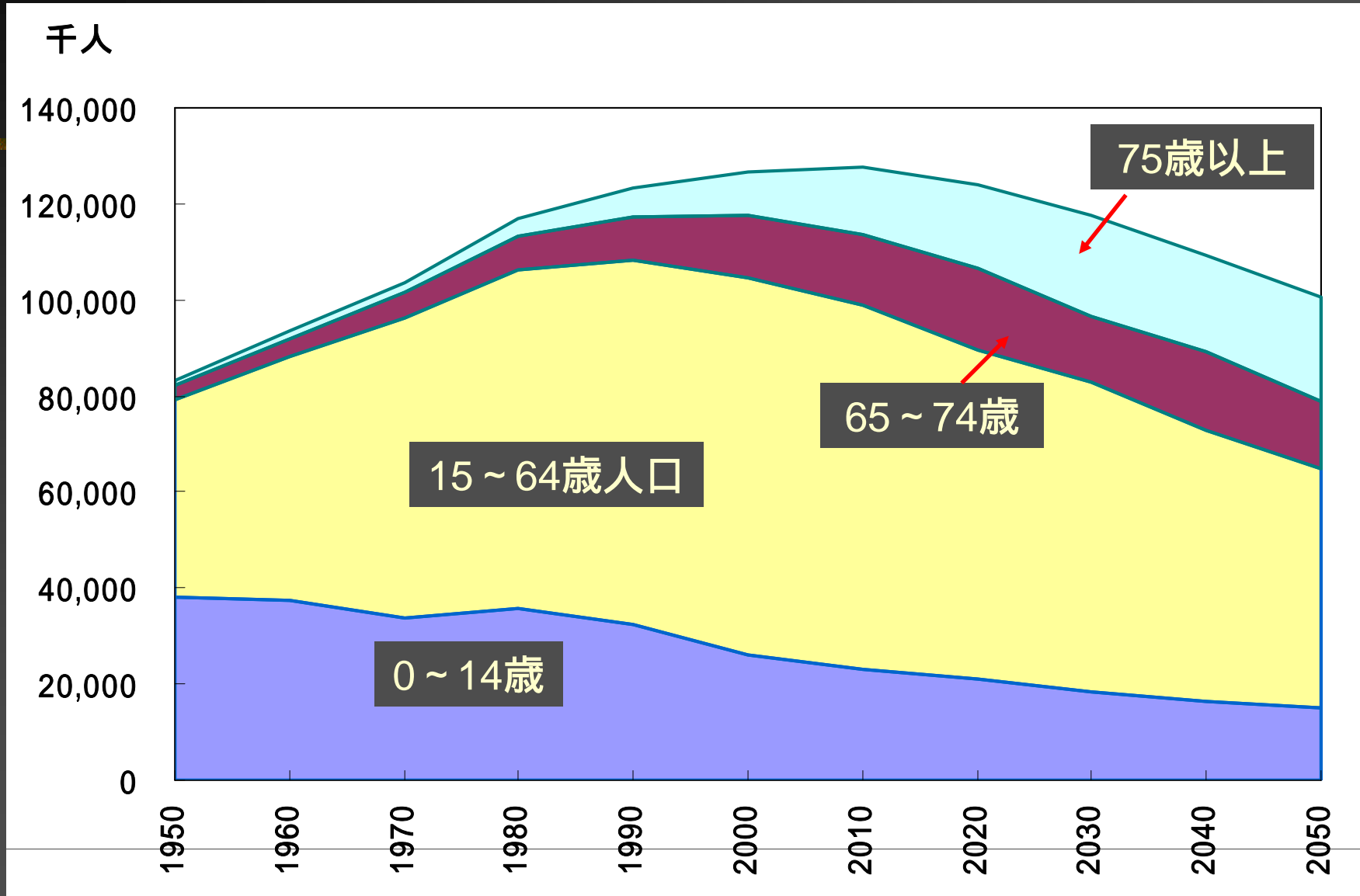
機構長 鎌田 実



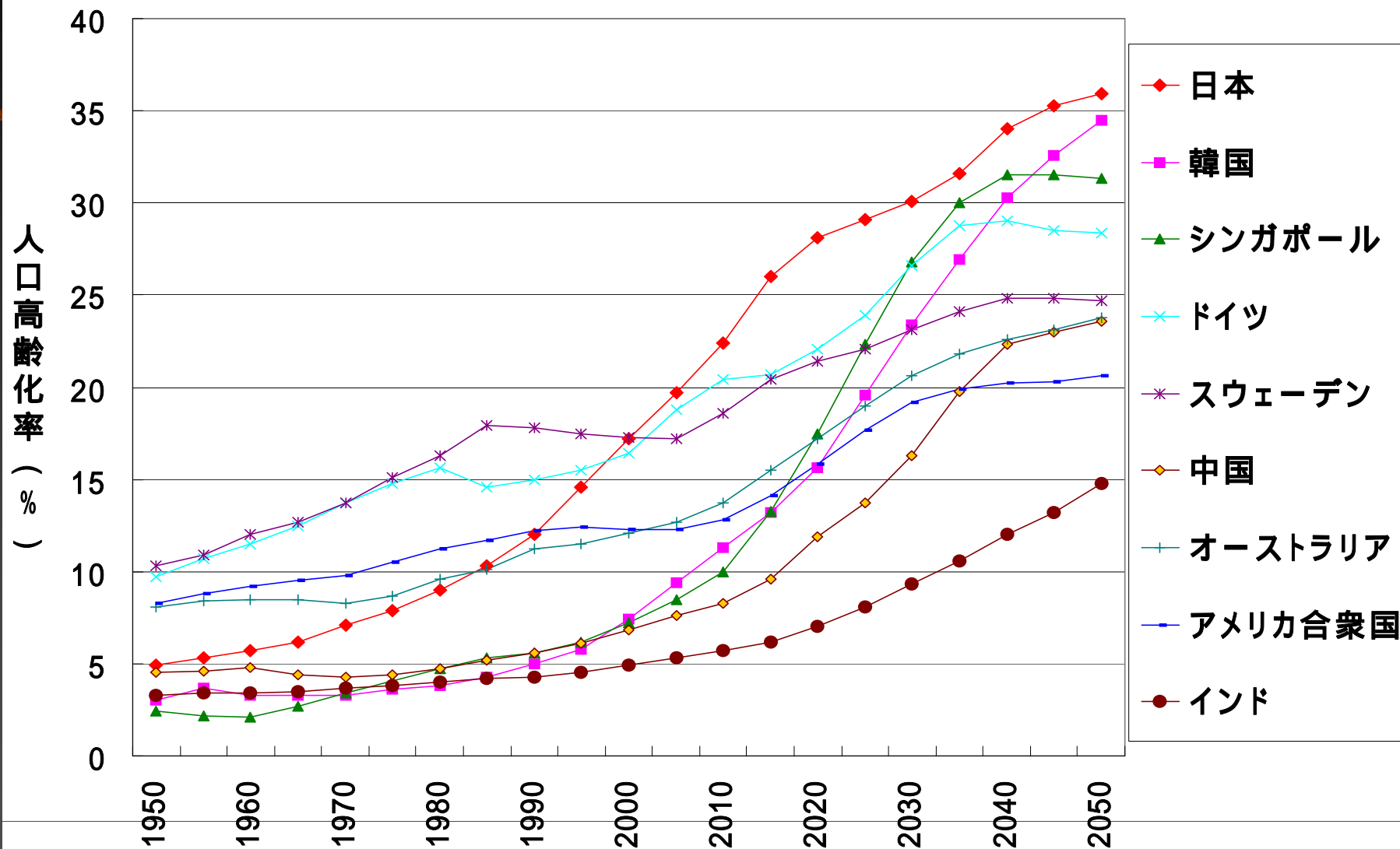
# 2030年の姿

- 日本の高齢化はますます進展し、高齢化率30%以上の超高齢社会を迎える
- それは世界で一番の高齢化率で、特に後期高齢者の割合が大きい
- 後期高齢者がこれほどまでに多い社会は世界のどこでも経験したことが無い
- 過疎地域の高齢化・限界集落の問題もあるが、それらは既に今日現実のものになっており、今後の高齢化の急速な進展は、主として都市部の高齢化
- 都市部の高齢化は人口が多いため、特に深刻

# 日本における人口構成の推移 (1950 - 2050)

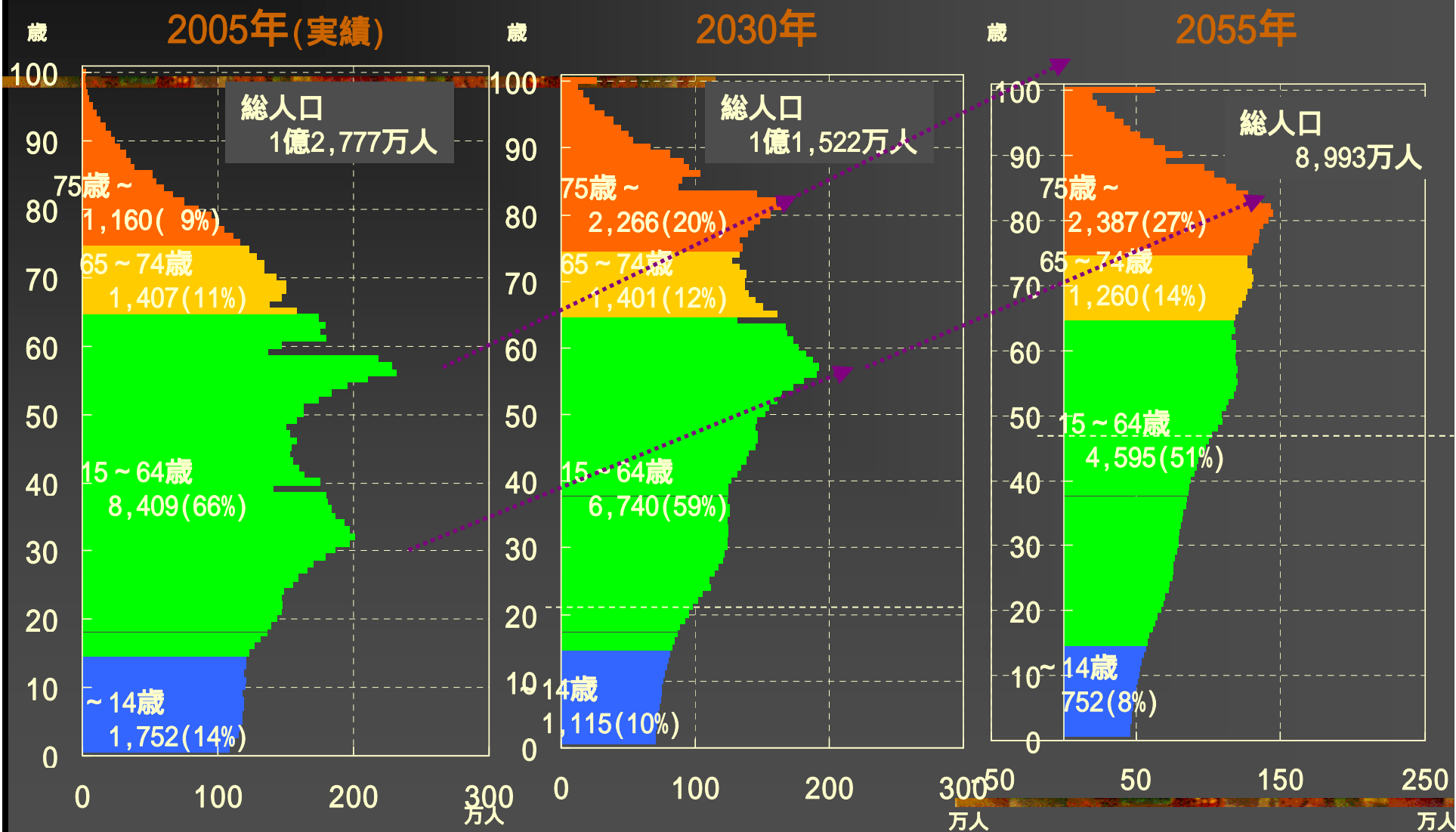


# 急速に高齢化するアジア (1950 - 2050)



# 人口ピラミッドの変化

平成19年中位推計



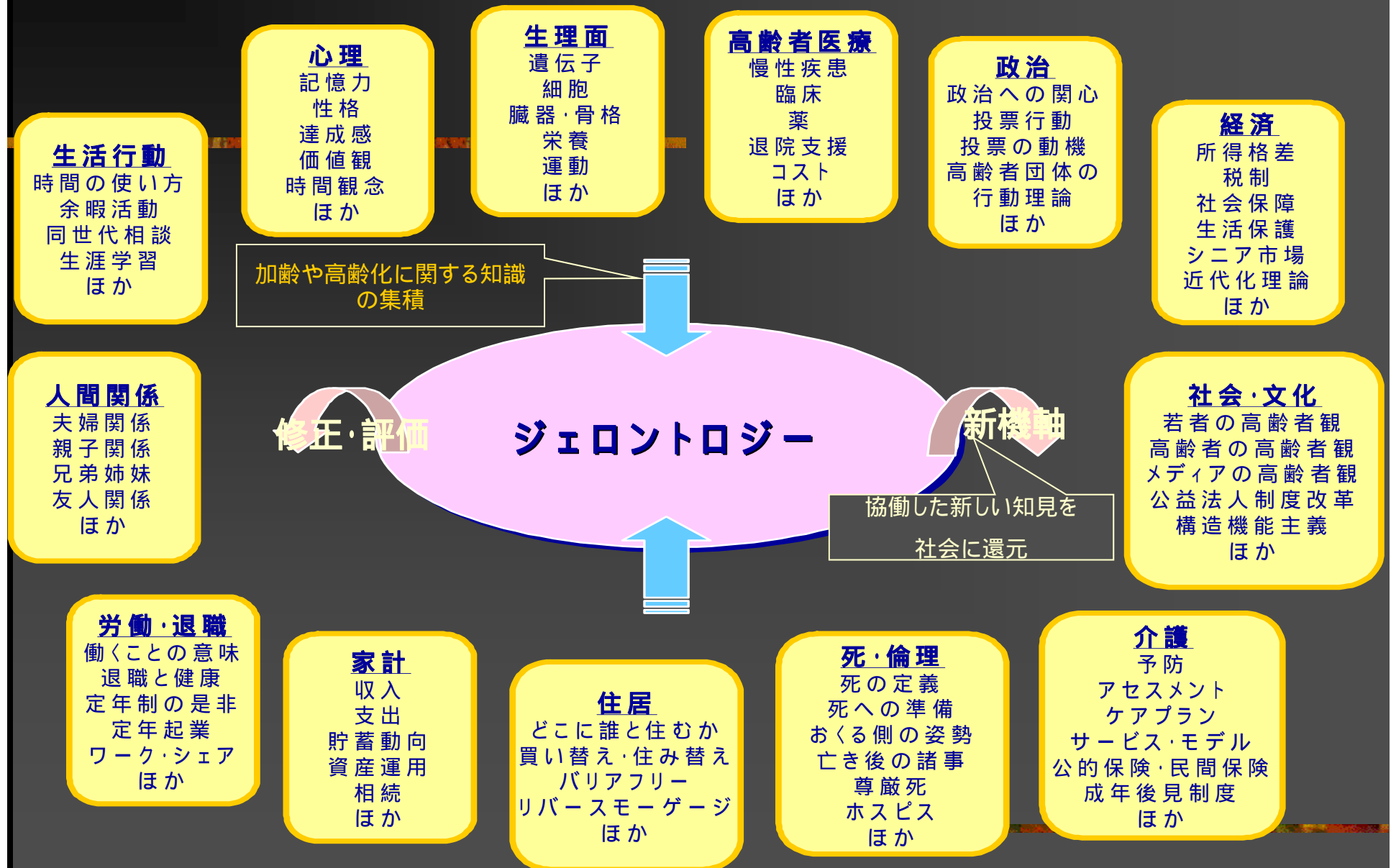
注: 2005年は国勢調査結果。総人口には年齢不詳人口を含むため、年齢階級別人口の合計と一致しない。



# ジェロントロジーとは

- 日本語としては、老年学、加齢学
- 元々は老年医学、老年社会学から
- 最近では、高齢者(個人の長寿化)・高齢社会(社会全体での高齢化)を扱う学際科学として注目されている
- 東大では、2006年から3年間ジェロントロジー寄付研究部門の活動を経て、2009年度から総長室に高齢社会総合研究機構が設立され、ほぼ全学部から25名の運営委員、約80名のメンバーで構成される。学部横断の教育、社会実験を中心とした課題解決型研究、産学連携、国際連携などの事業を実施

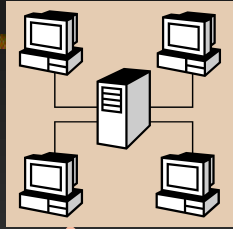
# 生活のあらゆる側面に関わるジェロントロジー



# 機構の理念: Aging in Place 住み慣れた地域で自分らしく生きる



情報ネットワーク



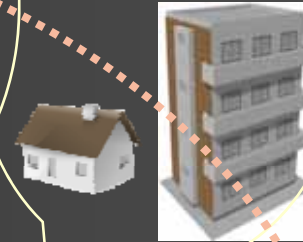
個々の状況に応じた  
移動手段



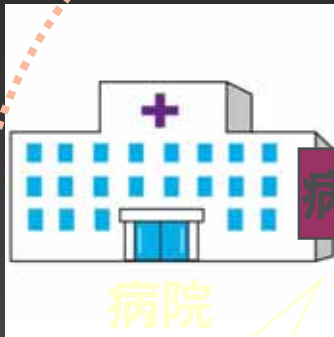
元気高齢者を  
地域の支え手に



ニーズに即した  
多様な住居



病院から在宅へ

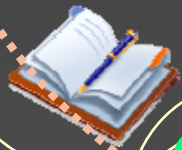


病院



地域

健康情報



遠隔医療



プライマリケア体制



かかりつけ医

薬局



24時間対応の訪問看護・介護



患者学

評価

高齢者の  
QOL



家族の  
QOL



コスト



# 東大の機構の 取組みの紹介例



# 交通事故ゼロを目指して

- 去年の交通事故死5155人
- 衝突安全対策から予防安全対策へ
- 自動車技術会では、ドライブレコーダを用いたヒヤリハットのデータベース35000件
- 日本学術会議では、事故ゼロを目指した検討を行い、提言にまとめた



# 日本学術会議



- ・総合工学委員会・機械工学委員会合同
- ・「工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会」
- ・「事故死傷者ゼロを目指すための科学的アプローチ」  
検討小委員会

平成20年6月26日

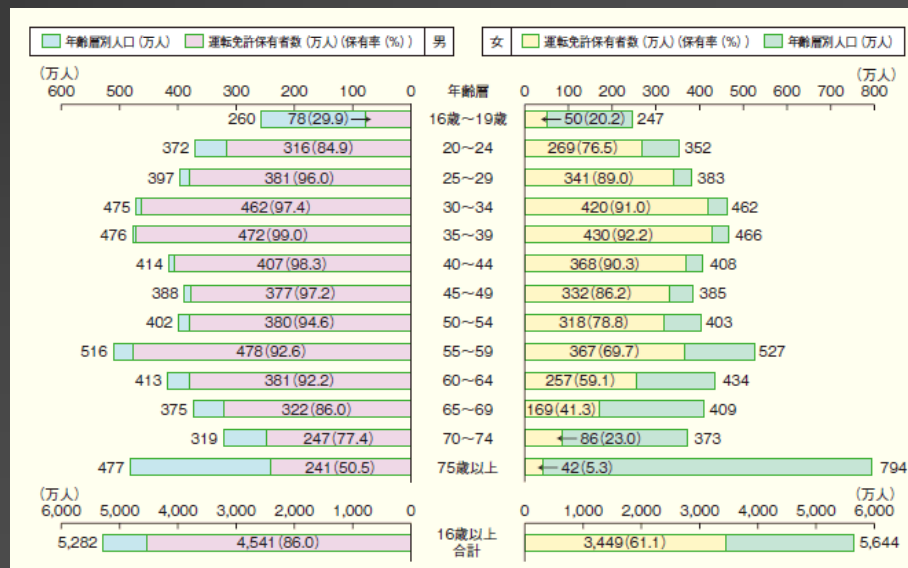
工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会  
提言「交通事故ゼロの社会を目指して」を公表

提言のポイント:

- ドライブレコーダの活用強化
- ヒューマンファクタ基礎研究の推進
- 予防安全技術の研究開発と普及促進
- 意識向上・交通安全教育の徹底化

# 高齢ドライバーの問題

- 高齢ドライバーの急増
- 高齢者が事故の被害者から加害者になるケースの増大
- 認知症の問題も
- 免許更新時の高齢者講習
- 認知機能検査の導入



注 1 警察庁資料による。内訳の運転免許保有者数及び人口は万単位で算出し、単位未満は四捨五入して構成率を算出している。ただし、16歳以上の合計については、人口は千人単位、免許人口は実数にて算出し、その後、人口及び免許人口を万人単位の四捨五入しているため、人口及び免許人口の内訳の合計と16歳以上の人口及び免許人口の合計が一致していない。

2 人口は、総務省統計資料「平成19年10月1日現在推計人口」による。ただし、単位未満は四捨五入しているため、合計と内訳が一致していない。

# 20年で解決すること

- 高齢化は決してネガティブな話ばかりでない
- 高齢者でも生き生きと暮らせるような社会を目指す
- そのためには、生活の基盤であるモビリティの充実が重要
- 公共交通、マイカーとも、安全安心な利用ができるように、新たな時代に向けての技術開発・社会の制度・教育などを形にしていきたい

# 知事連合の 高齢者にやさしい自動車開発委員会

- 麻生福岡県知事の呼びかけで、全国30を超える知事が賛同して活動がはじまった
- 公共交通の貧弱な地域において、高齢者の生活の足を安心安全な自動車により確保
- 高齢者のニーズ、特性などから、車両への要件をまとめ、プロトタイプを作成予定
- 次のフェーズでは、ITS等の活用で、より安全な自動車へ

# 新技術、新しいモビリティ

- 現行の運転支援装置等では、高齢者の受容性が懸念
- 認知症や身体的な事故により、正常な運転操作が期待できない場面もある
- そこで、自動運転技術を適用した、ロボット知能が運転を見守り、いざとなれば介入して自動回避ができるような車をつくりたい
- 一方で、パーソナルモビリティ等の新しいモビリティの出現も

# まとめ

- 世界一の高齢化を世界一の技術で解決したい
- 新たな人とクルマの関係を構築
- 住宅地や中心市街地等での、ゾーン30、ISA等と、ドライブの楽しさを維持しつつ危険の自動回避ができる未来の車
- 局所的なエコや健康の議論ではなく、トータルで活力のある社会が構築できるようなモビリティの姿をめざしたい